

H.T.さん（社会科教育コース） 滋賀県小学校 合格

1) はじめに

私が本格的に小学校の教師になりたいと思い始めたのは、3回生の教育実習を終えてからです。しかも、中学（社会）の免許を主免としていたので中学校での教育実習を終えてからということになります。

もともと教師になること自体、そこまで意識していませんでした。こんな意識の低い人間が、なぜ小学校の教師になろうと思い、どのようにして教員採用試験を乗り切ることができたのか、ということを中心に述べます。私よりしっかりした準備をしていることが分かれば自信になると思いますので、どうか気楽に読んでください。

2) 教師を目指すまで

私は附属学校ではなく、地域の中学校での教育実習を経験しました。そこでは計4週間の基本実習に加え、スクールサポーターなどでも関わる機会を多くいただきました。そのため、様々な先生方や子どもたちと話し合ったり共に学習したりする時間を過ごすことができました。

長く同じ中学校に関わった時間の中で、自分にとって一番収穫だったことは、教師という職業が人の人生に大きく関わる重みのある職業だという反面、同じだけのやりがいがあるとても魅力のある職業だと気づけたことです。そのことに気づいた時期から本格的に教師を目指すようになりました。

一方で、なぜ小学校の教師を目指すようになったかという理由は大きく2点あります。1つは、中学生の状況を見てみると、小学校で身につけておくべき基礎基本があまり身につけていないことが感じられたからです。もう1つは、中学校は学級担任制ではなく教科担任制であるということです。この2点が私を小学校の教師に方向づける大きな理由となりました。

小学校の教師になることで、基礎基本をしっかり定着させたいという学習面と、学級担任となって1日を通して子どもと関わり続けたいという生活面における思いを持ちました。そして、採用試験を受けるからには・・・ということで、4回生の教員採用試験前の6月にして小学校の教育実習を母校で2週間受けさせていただきました。これは試験勉強と並行する大変忙しい中での実習でしたが、それ以上に現場での学びを増やすことのできた非常に価値のある実習だったと思います。もし、小学校で実習を経験せずに試験を受けていたら、理想ばかりを抱いた薄っぺらい受験者だったと思います。

3) 採用選考試験に向けての準備

<一次選考について>

【面接試験（討論含む）：7月13日（日）または7月20日（日）】

面接や討論の練習は学生同士でグループを作り、筆記試験の対策と並行して練習しておきましょう。先輩たちの受験報告が詰まった部外秘を見ながら何度も繰り返し練習することで、本番の時に感じる緊張感とは全然違うはずですし、余裕と自身を持って試験に臨むことができるかと思います。また、面接・討論や、小論文の対策は教職実践論での学びが欠かせません。これは学生同士では気づくことのできない試験官側からの貴重なアドバイスをいただける機会なので、必ず受講しておいた方がいいです。実践論に限らず採用試験対策として大学が提供してくれるものは全て活用しましょう。それが滋賀大学教育学部にいることの強みの一つだと思います。

【筆記試験：7月27日（日）】

周りの友達の中でも早い人では3回生の終わりごろから、本格的に筆記試験の勉強をしていました。一方で私はと言うと、週に4日の部活動を4回生の11月まで続けていたのですが、そのせいもあってなかなか皆と同じ時期からは勉強に身が入りませんでした。

3回生から勉強するわけでもなく、教師塾にも行かず、「そろそろやばいなあ」が口癖のまま5月ごろを迎えていました。勉強しようという気がなかったわけではありません。もともと

筆記試験に対して自信が無かったので、参考書を準備したり、春季教職セミナーなどには参加したりしていました。しかし、それだけで自己満足に陥っていました。

先述しましたが、小学校の実習が始まる6月を目の前にして、5月からいよいよエンジンをかけ始めました。まず何から始めたかという、図書館に行くことです。図書館では同じように採用試験に向けて勉強をしている友達がたくさんいます。こうすることで自然と試験勉強をしなければいけないのだという追い込みをかけることができました。同じ場にいることで、自分も頑張ろうと思えるだけでなく、各種の問題を競い合って解くこともできます。たまに休憩を挟んだ時には、関係のないどうでもいい話をして気分転換もできます。

直前に受けた東京アカデミーの模試では3割しか取れませんでした。難しかったからと気持ちを切り替え、苦手なカテゴリーの問題の克服に努めました。過去問を解いて間違えて、同じ問題を分かるまでまた解いて・・・を繰り返すことでしか安心感を得られませんでした。これによって筆記試験は乗り越えられたと後になって感じています。

小論文の対策は、実践論の先生にお願いして添削してもらうことで、だんだん書き方が分かってきます。様々なテーマを繰り返し何回も書くことで自信をつけると良いと思います。

<二次選考について>

【個人面接、模擬授業、音楽実技、水泳実技：8月18日（月）から8月29日（金）までの間で指定する1日または2日間】

・個人面接

部外秘を用いた学生同士の練習と、教職実践論でのアドバイスや練習を大切にすることで自信をつけるしかありません。個人面接カードの記入内容によって多少は話す内容は絞られると思うので、その分簡潔に分かりやすく伝える練習ができると思います。

・模擬授業

これは一次選考と同じように、学生同士でグループを作り、協力して対策をしていました。指導案を考えたり、実際に模擬授業をし合って意見を交換したりすることで、感覚を掴んでいきました。

・音楽実技《ピアノ、リコーダー、歌唱》

自分が一番苦手としている分野でしたが、まわりに同じように苦戦している仲間が多い分野でもあります。私はその中でも特に、ピアノを全く弾いたことが無かったので焦っていました。二次選考まで進むことを見据えて、4年生の春から少しずつ知り合いのピアノ教室に通っていました。学校では一次試験を終えてから、時々音棟に通い練習していました。課題曲は任意で選べるので、その曲をひたすら練習して覚えました。直前には音楽コースの先生にも指導してもらう機会があり、それも活用しました。そのおかげで本番はミスすることなく弾くことができました。

リコーダーは小学生の時以来で、完全に忘れていました。当然練習していたのですが本番前日まで不安が残ったままでした。試験本番は初見の楽譜の階名唱と演奏でした。不安は的中し、出来はすごく悪いものでした。しかし、そこでおどおどせず試験官に対して笑顔でありがとうございましたと言えて良かったと思います。

歌唱は、小学校学習指導要領に示されている歌唱共通教材の中から、試験当日示す2曲を、無伴奏で歌わなければいけません。楽譜は見てもいいので、友達と歌い合ったり、直前の音楽コースの先生による指導をもとに練習を重ねたりして乗り切りました。

・水泳実技

小学生の時に水泳を習っていたことや、海や川に遊びに行くことも多く、泳ぐことに関して自信があったので、一度も練習せずに本番の試験に臨みました。しかし、本番でいざ50mを泳ぐことは意外にきつかったので、たとえ自信があっても練習を何回かすることで感覚をつかんでおいた方がいいと思います。

4) おわりに

自分はこのような活動を経て、無事に滋賀県の小学校教員として採用されましたが本当に奇跡だと思います。体験記を書いてほしいとお聞きした時も、語れることは無いので正直断ろう

かと思いました。しかし、してきたことをありのままに伝えることで、自分はこの人より頑張っているから大丈夫だ、という自信を持てるのではないかと思い、書かせていただくことを決意しました。不安になることも多々あると思いますが、そういうときこそ周りの人たちと協力し合って頑張ってください。

M.M.さん（体育・健康教育コース）

滋賀県小学校 合格

【はじめに】

私は、滋賀県の中学校の保健体育教師になりたいと思い滋賀大学に入学しました。しかし、3回生の頃、小学校の授業研究会に何度か参加するようになり、中学校とはまた別の小学校教員の魅力を感じ、教員採用試験の願書を出す直前まで校種を迷いました。小学生を対象として卒業論文の研究を行っていたので、それを生かしたいと思い、最終的に小学校を選択しました。迷っている期間に小学校と中学校両方の教育実習やスクールサポーター活動、授業研究会への参加したこと、小学校現場に行って卒論研究をしたことは、自分の学びとなっただけでなく教員採用試験においても武器となりました。

勉強は苦手であったのにも関わらず校種が定まらず、勉強を始めるのも遅く、模擬試験の結果を見て落胆しました。教員採用試験は人生の中で最も勉強をしましたが、一般教養の筆記試験はほとんど点数が取れませんでした。しかし、現場に足を運んで学んだことに関しては語れる自信がありました。また、大学の先生や友達だけではなくボランティア先の校長先生に面接や集団討論の練習をしていただき、面接試験においては自分の学びや思いをうまく伝えることができました。何より、試験直前までボランティアに行き子どもと接していたこともあり、質問をされたときにすぐに頭に子どもの言動が思い浮かばせながら話すことができたことが私の強みとなりました。

教員採用試験が近づくにつれ勉強に力を注ぐことももちろん大切ですが、教育現場に行って先生や子どもと接することで学んだことは必ず生きてきます。また、子どもと接することで子どもに励まされ、勉強を頑張ろうという気持ちにもなれました。是非、みなさんもスクールサポーター活動に行き、面接試験時に自分にしか話せないような経験を見つけてほしいと思います。

【1次試験について】

- ・ 集団面接、集団討論
- ・ 筆記試験（一般教養・教職教養、専門教養、小論文、適性試験）

集団面接は講師経験者の方がほとんどでした。大学生らしくフレッシュさを出すように心がけました。笑顔でハキハキと発言するようにと指導されていたのでとくにこの二つを意識しました。面接官の質問をしっかりと聞き、質問内容に沿って1分間くらいを目安に話すことが大切だと思います。自己PRはたった1分でしか話せないので、面接官の心に届くような内容や語り方を心がけました。

筆記試験は普段からの積み重ねだと思います。数をこなしていれば、教職教養や専門教養は一度はやったことのある問題がたくさん出てきます。小論文は滋賀県の求める教師象から出題されました。しっかりと滋賀県の教育に関する情報を収集しておくとういことかと思われます。小論文の時間はかなり短く、普段から時間内に書ききるように練習する必要があるかと思います。集団討論は普段からスクールサポーターとして、子どもと接していたので、エピソードを踏まえて自分の意見を話すことができました。一般的に言われていることを言うよりも、自分にしか言えないような意見があると印象に残りやすいのではないかと思います。

【2次試験】

- ・ 個人面接
- ・ 模擬授業
- ・ 水泳実技（50m）
- ・ 音楽実技（ピアノ、リコーダー、歌唱教材のアカペラ）

1次試験が終わってから少し時間があります。合格しているか分からなくても、気を緩めず、2次試験に向けて練習しないと2次試験はさまざま試験があるので大変でした。特に水泳と音

楽実技は、時間をもらっているのでできて当たり前考えられるかもしれません。

模擬授業は、教科を定めておくとかあらかじめ指導案を作り練習できます。しかし、私の場合、保健体育の保健領域を完璧に授業できるように練習をしましたが、高学年のハードル走を引きました。中学校の模擬授業でハードル走をしており対応できたので、大学での模擬授業や教育実習で実際に授業をたくさんしているとやりやすいと思います。板書をする際、定規を使うことは子どもの手本となるため重要だと感じました。

【終わりに】

私が教員採用試験を振り返ってみると、うまくいったと感じる瞬間が1つだけありました。それは、個人面接で卒論について聞かれたことです。教員採用試験の勉強と並行して、小学校でボランティアをしながら、児童を対象にデータ取っていました。先行研究を調べたり、実際にデータをまとめたりしている中で面白い発見がありました。そのことについて面接官に話すことと教育に携わっている面接官でも知らないようなことを述べることができ、研究について詳しく教えてほしいと言われメモまでしてくださいました。自分にしか話せないような経験があると心強いと感じました。私から言えることは、実際に学校の様子を見て学び、実践的な指導力を大学生のうちにつけておくことは大切だということです。

N.H.さん（生活・技術教育コース）

福井県小学校 合格

【はじめに】

みなさんの中で、「福井県は受かりにくい」と聞いた人がいるかと思います。私もその一人で、「受ければラッキー」という気持ちで福井県の教員採用試験に臨みました。正直なところ、福井県は受かりにくいという理由から、滋賀県の教員を第一志望としていて、福井県は第二志望でした。去年は滋賀県と福井県の試験日程が被らずどちらも受験できると分かり、本格的に福井県の勉強に取り組んだのは6月くらいでした。福井県に限らず、私のようにどこの都道府県を受験するか迷っている方は、共通した試験（教職教養や小学校全科(専門科目)）の勉強や試験内容の特徴や傾向を把握しておくなどできることを行い、焦らずゆっくり決断したらいいと思います。

ここからは、主に福井県の試験対策について書いていこうと思っています。マイペースな体験記ですが、福井県の教員採用試験を受ける方にとって少しでも参考になれば、幸いです。

【一日の勉強内容（時間）】

- ・ 1月～4月…大学での教育実践論の講義(約3時間)、授業の合間に小論文など課題やらくらくマスター、オープンゼミなどの問題集(約1～5時間)
- ・ 5月～6月…大学での教育実践論の講義(約3時間)、小論文や過去問題集(約3～6時間)、討論練習(約1～2時間)
- ・ 高校の教育実習期間(二週間)中…電車の道中でらくらくマスターを見るだけ
- ・ 6月～7月…ローカル問題対策、問題集や討論、面接練習(約10時間～14時間)

【福井県の試験内容】

一次試験…《筆記》①一般教養、②教職教養、③専門科目(小学校全科)
《実技》④ピアノ(伴奏)、⑤水泳(25m)

二次試験…⑥小論文(800字程度)、⑦集団討論→意見発表(40分程度)、⑧個人面接(20分程度)

【福井県の各試験の特徴と対策】

- ①一般教養…教材はなし。小学校全科の勉強と合わせて勉強していました。高校レベルの問題で他県と変わらない。問題数が多いので、時間配分に気をつけることが大切です。
- ②教職教養…教材は、らくらくマスター、全国の教職教養の問題集、福井県過去の問題集、福井県教育振興基本計画などの教育施策の資料です。全国の教職教養の問題をすべて解きました。基礎問題、法律や学習指導要領など改訂された最新の内容、時事問題、福井県の教育施策に関する問題が多いです。教育施策の名前と内容を覚えておくときにも役に立ちます。
- ③専門科目…教材は、らくらくマスター、滋賀県の過去問題集である。筆記では最も重視される試験です。学習指導要領の問題はあまりでない。福井県に関する問題が国語（白川文字）や社会（福井県の特徴の説明、梅田雲浜、橋本佐内、御食の国（小浜）、道元）の問題で出てきました。問題数が多く、解く時間がなくなるので分かる問題からどんどん解いていきましょう。福井県では、次も必ず外国語の問題出てきます。
- ④ピアノ…「春の小川」の伴奏をしました。「春の小川」が一番簡単な伴奏で確実に弾けると思って選択しました。私は面接官の方を笑顔で見ながら(子どもがいることを想定して)口パクで歌いながら弾きました。そのような指定はさせなかったが自らそのようにしました。
- ⑤水泳…25m をクロールか平泳ぎで一所懸命泳ぎ切る。タイム計測があったので、両方泳ぐことができる人はクロールを選択し、できるだけきれいに早く泳ぐことが大切です。
- ⑥小論文…実践論の小論文分課題をしっかりしていれば、心配ないと思います。800字程度で時間は60分。福井県は直接問題が示されるのではなく、ある文章を読んでそれに関連した課題が与えられる。しっかり問題を読むことがポイントです。

- ⑦集団討論→意見発表…福井県は最初に1枚の紙が配られます。そこには課題が示されていて、それについて自分の考えを15分程度でその紙にまとめる。それから、別の教室に移動して討論が行われる。試験官は3人で、討論の時間は25分程度です。毎年、司会者とまとめ役を1人ずつ決めるみたいですが、今回は「自由に討論し、討論の最後に代表者1人が討論のまとめを発表してください」という指示が出ました。そして、意見発表に移り次に1人ずつ討論のまとめを発表します。次に、試験官1人1人から、質問されたことに対して挙手で発表することもありましたし、ある試験官は全員あてて発表させたりしていました。私は「若者の読書離れ」という問題に対する討論で、ある試験官に「感銘を受けた本について紹介して下さい」という質問に対し、正直に「あまり本を読みません。そのような本はありません」と答えてしまいました。その時は、落ちたと思いました。でも、黙り込むよりは素直にはきはきと答える方が良かったことが分かりました。
- ⑧個人面接…基本、願書と一緒に送付した自己PR(志望書)の内容から質問されます。なので、志望書のコピーを忘れずにしておくことが大切です。面接官は3人で、1人目は免許のこと、なぜ小学校なのか？討論はどうだったか？いじめに関することを質問されました。一回答えるとその内容からまた質問してくるごく一般的な面接でした。2人目は、いわゆる圧迫面接でした。答えたことに対して何回も質問してきました。質問内容は、強みと弱み、教師に必要な資質合計3つ、大学で学んだことでした。3人目は、答えたことに対して何も反応せず、次の質問に移る面接でした。質問内容は、教師になったとき控室までどのように子どもを案内するか？保護者の信頼はどのように得るか？誰に相談するか？でした。面接官によって、聞き方が違いますが、伝えたいことを端的にまとめてということがポイントになると思います。質問の内容に応じて表情を（真剣な顔、笑顔に）変えることも意識しました。緊張はすると思いますが、堂々と胸を張って教員に対する熱意をぶつけてきてください。

【大切なこと】

福井県の筆記試験はローカル問題が多いです。そのことをチャンスだと捉え、出題されそうな福井県の教育施策の資料をかき集めてひたすら熟読し内容を覚えました。ローカル問題が解けていれば、筆記試験でも受験する都道府県に対する熱意が伝わると思って、必死に取り組みました！

面接試験では、福井県がどんな教員を必要としているのか、福井県はどのような子どもも育てようとしているのかについて把握し、自分が福井県という環境で教員としてどのような力を発揮できるかをアピールできるように対策をしていけばいいのかなと思います。

【おわりに】

滋賀県・福井県の両方の試験対策をすることは負担が大きく、本当に辛かったです。でも、滋賀大学は教員志望の人が多く、受験する都道府県関係なく支え合って勉強する仲間がいたので頑張れました。頑張った分勉強した分だけ、自信になります。自信を持って、試験に臨んでください。

福井県でみなさんを待っています。

M.K.さん（社会科教育コース） 滋賀県中学校（社会） 合格

はじめに

私は教員になりたいと志望し、教育学部に入學しました。入學当初は高校か中学校の教師になりたいという思いで、まだ具体的に定まっていませんでした。しかし、附属中学校での教育実習で大きく考えを定める出来事がありました。自分の担当したクラスで道徳の授業を行ったときに、ほとんどの生徒がとても真剣になって考えてくれました。そして、連絡帳の日記欄や最終日に生徒全員からもらったカードには多くの生徒が道徳の授業のことを書いてくれました。一つの授業を通して生徒に深く考えさせられた実習の経験から中学校の教師になりたいという思いが強くなりました。

三回生の秋学期～春休み

滋賀県の教員になるためには、教員採用試験に合格しなければなりません。そこで、教員採用試験の過去問に目を通すことを最初に行いました。やみくもに勉強しても、効率的な対策はできません。出題傾向やレベルを知ったうえで、勉強をはじめました。

時間と勉強方法

大学の授業、アルバイト、教師塾というように過密なスケジュールだったので、勉強時間は授業のない時間帯や電車の移動時間などを利用し、時間を多く確保しました。勉強方法は参考書のまとめページをノートにまとめ、その後問題を解き、問題を解くのに必要な知識をさらにノートに追記しました。そして、時間を空けて、同じ問題を解き直すことを大切にしました。解き直すことで理解が深まって解けるようになった問題、もう少し勉強して理解を深めなければならない問題というように分類し、解けなかった問題だけをさらに時間を空けてから解くことを繰り返しました。

専門教科の勉強方法

専門教科では高校の時に地理を履修していなかったもので、重点的に対策することにしました。問題集の問題一問に答えても、同じ問題が出題される可能性は高くありません。そこで、出題された問題に関連する事項を図書館にある高校の教科書で調べ、ノートにまとめ直して幅広い内容に触れながら知識を身に付ける勉強方法を心がけました。地理の内容では、参考書には地図があまり載せられておらず、場所がわからないことがありました。そこで、白地図を用意して、そこに問題で出題されたことを書き込み、オリジナルのノートを作り、絵や図を使いながら視覚的に勉強する工夫をしました。勉強方法は人によって最適な方法があると思います。自分にベストな方法を勉強しながら探してもらえればと思います。

4～5月

教職実践論

教職実践論が本格的にはじまります。講義では教職教養・小論文・面接などに必要な知識や考え方を学ぶことができます。小論文では、まず、字数通りに正しく書くことを目標にして論文を書き、先生に添削していただきました。論文が返ってきた後には、このテーマで自分が何を書いたのかわかるようにノートにまとめました。ノートにまとめたことで、テーマごとの自分の考えを整理でき、その後の面接や小論文に生かすことができました。

校内推薦

5月には今年度から始まった大学推薦の準備を始めました。まず、自己PRシートを完成させました。そして、校内面接の直前には実際に友達と面接の練習を行いました。推薦をいただいた後は、一般教養・教職教養・専門教科の試験が免除になったので、一次試験の集団討論と小論文を徹底的に対策することにしました。

5

5月末	校内推薦
一次試験	
7月13日(日)	面接試験(一分間スピーチ・集団討論・意見発表)
7月27日(日)	筆記試験(小論文・適性検査)

面接練習

滋賀県の中学校教員を受験する仲間とグループをつくり、集団討論の練習を本格的にはじめました。最初は手探りではじめていましたが、場数をこなすことで、討論の進め方や話し方などを身に付けていきました。集団討論では書記や時間係などを設け、討論を見るグループを作り、よさや改善点などを教え合いました。書記の人が書いてくれたメモをみんなで共有し、討論を振り返ることができるようにしました。さらに一分間スピーチや意見発表も練習していきました。特に一分間スピーチでは、校内推薦のときに書いていた自己PRがあったので、志望動機などを改めて最初から考え直す必要はありませんでした。校内推薦の自己PRのおかげで、面接のベースができていました。また、意見発表は集団討論や小論文の内容をまとめたノートを利用して、自分の答えをつくりました。

私自身面接は得意ではなく、早口になったりするのでむしろ苦手意識を持っていました。そこで大学の友達と自主的に面接練習をし、高校のときの友達と面接練習することで、面接に慣れることを目指しました。この経験から、面接の力を向上させるためには、場数を多く経験することが一番だと思います。

小論文

小論文は教職実践論の添削を利用し、小論文の自分の型をつくることを意識しました。6月の後半に一度、友達と過去問を実際に35分で書く練習をしました。その際には本番と同じく鉛筆で書く練習をしました。その後、小論文を交換して、添削をしました。この練習により、時間配分や必要な鉛筆の本数などを知り、本番の状況を想定することができました。一次試験面接終了後からは集団討論をしていたグループでも小論文の練習を始めました。全員が同じテーマについて時間内に書き、全員で添削するようにしていました。さらに過去問をやり尽くした後には去年の問題を基に出題されそうな問題を自分たちでつくり、小論文を書く練習も行いました。

一次試験

面接では講師の人が多く、大学生は2・3人という状況でした。集団討論では練習してきた内容とは異なり、具体的な現場での対応の話がでることが多い状況でした。そこで、話の流れを見ながら、こうしていきたいということを述べて、積極的に発言することを心がけました。

二次試験まで

二次試験
8月18日(月) 模擬授業 個人面接

模擬授業

一次試験が終わってからは、二次試験の模擬授業と個人面接の準備をすすめました。模擬授業は過去問で問われた内容をもとに指導案を作成しました。このとき注意が必要であったのは、本番は教科書や教具がなく、生徒がいない状況で授業しなければならないことでした。そのため指導要領や教科書を読み込み、指導しなければならない内容を理解したうえで、授業をつくりました。生徒がいると想定して授業をするので、生徒の反応はこちらにとって都合のよい発言を考えておき、理想的な状況にして進めることにしました。そして、教科書がなくても授業ができるように何度も模擬授業を行いました。滋賀県の中学校を受験する仲間と模擬授業を見せ合い、質を高めました。

個人面接

個人面接は今までの面接の練習をもとに答えを考えました。過去問を見ているとサービスや発達障害に関する質問もあったので、知識の確認が必要でした。また、個人面接カードを書いていたので、具体的に何をしたのかが思い出せるように、面接カードのコピーにメモを書いて対策しました。

実は・・・

実は採用内定の決定は合格発表日ではありませんでした。合格発表日当日、採用決定の欄に自分の受験番号はなく、補欠枠にありました。採用不採用の連絡が12月までわからない状態になり、ダメかと思うことも何度もありました。しかし、12月採用が決定し、一安心することができました。

おわりに

教員採用試験までの道のりで多くの仲間がいたから、頑張ることができたと思います。仲間とは勉強するだけでなく、練習後にご飯を食べに行くなどの息抜きも大切にしました。共に励まし合い、高め合う仲間をつくり、教員採用試験に臨んで下さい。

振り返ると、非常に多くの人に支えられての採用であったと思います。共に頑張ってきた大学の仲間、教職実践論を担当して下さった先生方、図書館の自習場所や学習室などの勉強する環境を整えてくださった大学の皆様、家族の支えがあって初めて採用という結果を得ることができたと思います。今後も感謝の気持ちを忘れず、教員という仕事に挑みたいと思います。

R. S.さん（学校臨床コース） 兵庫県中学校（英語）

【はじめに】

私は3回生の春休みから1年間交換留学をしていたため、同回生より1年遅れて教員採用試験を受験しました。留学を機に英語の教員を目指すことを決意しましたが、それまでに私は英語の免許を履修していなかったため、帰国後の4回生の春から英語の免許取得のための授業を受講しながら、並行して教員採用試験の勉強をすすめることになりました。残りの1年で履修計画をたてることができたのは幸運でしたが、日中は授業があるため、まとまった勉強時間を確保できなかつたり、切磋琢磨しあえる友達の多くが卒業していたことから、教員採用試験までは、自分自身や不安との戦いだったように思います。おそらく、私のようなケースの方は少ないと思いますが、少しでもみなさんの勉強のお役にできれば幸いです。

【一次試験（筆記）】

兵庫県は一次試験に面接や小論文がなく、筆記試験だけなので、第一に学力を問われます。自分自身をアピールしていけるのは、1次試験を突破してからということになります。問題に関しては、去年から教職教養が出題され、出題傾向がよめないことや、大問の一つに「情報」が含まれるといった特徴があります。

勉強方法としては、時間的に余裕がなかったため、まず兵庫県の過去問を数年分解いて出題傾向と自分の弱点を把握しました。センター試験で勉強したことの復習をしている感覚で取り組めたため、弱点と忘れていた部分を問題集で集中的に解き、教職教養と専門にほとんど時間をあてました。センター試験で準備してきたことが土台になっていると感じました。

一方で教職教養に関しては、手をつけていなかったので30日完成をまず3周してから、問題集で最初から問題を繰り返し解いていきました。とりあえず、「やった」という気持ちをもつことがモチベーションの維持につながるの、同じ問題集を繰り返しすることで小さな達成感を積み重ねました。

【二次試験（専門教養、集団討論、個人面接、模擬授業）】

・専門教養

留学先が英語圏ではなく、コミュニケーションのため、英語を使っていただけだったので、スピーキングとリスニングにしか自信がなく、過去問を難しいと感じてしまうほどリーディングやライティングには強い苦手意識がありました。

勉強方法としては、過去問をひたすら解き、出題傾向と自分の苦手なポイントをつかんでいきました。英語教育に関する英単語は長文で出てきたり、英作文でも使えることがあるのでしっかりと覚えていきました。英単語を覚えたり、速読をするために、過去問を音読することが自分の勉強方法として合っていたので、地道に繰り返し行いました。

・集団討論

母校実習と重なり、滋賀大学で開講される「教職実践論Ⅱ」の集団討論に参加することができませんでした。そのため、滋賀大学で教採対策セミナーを開催していたNPOの「どりらぼ」さんにお世話になりました。滋賀大学生だけでなく、教員を志望している学生も沢山集まっていたため、とても刺激的な時間を過ごすことができました。また、一人一人、フィードバックを丁寧にして頂けたので、自分が納得できる答えを見つけることができました。

・個人面接

個人面接は、「教職実践論Ⅱ」に参加して、実際に先生方に指導して頂きました。質問に対し、何を自分は答えるのかということは面接において勿論大きなポイントですが、それ以上に表情、入室時の挨拶や声調、話し方など、相手の五感に対してどのように自分をアピールできるかということは重要になってくると思います。

また、「自分の言葉」で伝えるためには、自分の考えや思いと向き合い、それらを表すのにぴったりくる言葉を吟味する必要があります。友人と練習をしたり、他の人の考え方にふれながら、しっかりと時間をかけて「自分の言葉」を見つけていってください。

・実技試験（英語での集団討論）

実技試験は英語教育に関するテーマが出題され、それに対する考えを英語で述べ合うというものでした。個人、集団面接のために、これらの質問に対して自分の考えを整理していくと思います。そのため、実技試験では自分が持っている英語の語彙力でそれらをどのように表現するかということがポイントになると思います。私は、留学先で使っていたことが訓練になっていたため、話す内容を整理するだけでしたが、日本ではそのような環境は少ないと思うので、日ごろから、英語を使って話す習慣を生み出すことが大切だと思います。

英語での受け答えに対する練習量は本番での自信につながるので、全員が頑張ります。そのため、日本語との大きな相違点である英語の発音や抑揚まで意識した練習は受験生の中でも、差がつくところだと感じました。

【おわりに】

同じ自治体の英語を受ける人や同学年の友人があまりいなかったことは正直、心細さを感じ、このやり方でいいのかな・・・と不安になることが多々ありました。そのため、応援し続けてくれた人たちの存在は本当に有難かったです。これから教員採用試験を受けるみなさんは、一緒に高め合える仲間を積極的にみつけて頑張ってもらいたいと思います。

おそらく、みなさんが教員採用試験を受験しようと決意するまでに校種や教科、本当に教師を目指すのかといった迷いの時期があったのではないのでしょうか。また、今まで生きてきた中で、悩んだり、真剣に考えた「何か」があるとおもいます。それらを大切にしてください。きっと、自分を彩ってくれると思います。自分を大切に、仲間を大切に、頑張ってください！応援しています。

T.T.さん（理数教育）
滋賀県中学校（理科）

【はじめに】

私は今年度教員採用試験を受験し、合格をいただきました。しかし、教員採用試験を受けると決めたのは教育実習が終わり、数か月が過ぎた3回生の11月でした。私は自分自身に教師をこなせる自信が無く、夢である教師に向けて勉強をするか、それとも諦めて就職活動をするか非常に悩んでいました。

そのような葛藤の中で私が教員採用試験を選んだ理由は、「子ども」でした。教育実習やボランティア活動を通して様々な子どもたちと接してきました。その中で、子どもと心を通わせて支えてあげることは非常にやりがいがあり、笑顔になれると気づきました。

教師にしかできないことは様々あります。私は、子どもと心を通わせるという、自分なりの教師にしかできないことを見つけ教師になると心に決めました。

【試験勉強】

12月～2月：教職教養

主に、12月から2月は教職教養について勉強しました。教職教養は非常に覚える内容が多く、面接などでも聞かれるため完璧にしておく必要があります。ですが、時間も限られているので私は滋賀県の過去問を数年分分析し、どのような問題がどの程度出ているのかを把握しました。これをしたおかげで重点的に勉強する内容がわかり、スムーズに計画通り進めることができました。

3月～5月：教職教養・専門教科・面接討論練習

この時期になると、教職教養だけではなく専門教科や面接練習も始めていかなければなりません。特に面接練習は力を入れて行っていかなければなりません。教員採用試験でも配点が高く、筆記の勉強をしながら喋る練習もしなければならぬので非常に忙しくなります。具体的な勉強方法は下記に記載します。

6月～7月：面接討論練習・小論文練習

私は、大学推薦を大学の方からいただいたので5月末で筆記試験(小論文以外)が免除になることが確定しました。なので、面接討論練習に集中して取り組むことができました。また、小論文は各回数を重ねていくことが何よりも力になると感じたので、できるだけ多く書き友人と見せて互いに添削を行いました。

8月(1次試験後)：模擬授業練習

模擬授業の練習は同じ教科を受験する友人と行いました。2次試験まで1ヵ月しか時間がなかったので中学校1年生から3年生までのすべての範囲を対策するのはとても厳しいです。なので、過去問の問題を中心に行い、友人と分担して授業を考えてくるなどをしていました。周りとの協力がこの期間は欠かせなかったです。

【勉強方法】

筆記試験

筆記試験は覚える内容が非常に多いですが、専門教科と一般教養は高校時代までに学習した内容も出題されるので、復習することもたくさんあります。なので、高校時代の勉強したノートや教科書を活用することも大切です。教職教養は、ほとんどが新しく学ぶ内容になるのですべてを覚えることは難しいです。なので、前でも述べましたが自分が受験する自治体の過去問を分析します。どのような内容のものが出題されるかの傾向を知ってから勉強を始めたほうが必要な部分を重点的に学ぶことができます。

また、試験では各自治体の条例や方針などから出題されます。なので、各自治体の教育委

員会のホームページから重要な条例や方針をダウンロードして覚えることも必要になります。

面接・討論

面接と討論では自分の意見を明確にかつコンパクトにまとめて話す力を身につける必要があります。練習の際に、喋る内容を一語一句覚えることではこの力は身につけません。練習ではまずは人の前で自分の意見を話すということを何度も繰り返すことが大切です。周りの友人と協力しながらではないとこの力を身につけるのは非常に難しいと思います。

また、面接では聞かれた内容、討論ではテーマの内容からずれたことを話してしまうことが多くあります。そのような失敗を起こさないためにも相手の話をしっかりと聞き取る練習も大切になります。特に討論では、ほかの人が話した意見に関する自分の意見を述べる人が多いので、相手の意見を尊重したうえで自分の意見を述べる力が必要になります。

小論文

小論文では具体的な自分の考えを持っている必要があります。教師になったらどのような実践を行うかなどを小論文では書くことが多いので、さまざまなテーマで制限時間内に書く練習を行い、自分の考えを確立させておくことが重要です。また、周りの友人の書いた小論文は非常に参考になるので、お互いに添削することも自分の力を伸ばす手段の一つです。

模擬授業

模擬授業の対策においてすべての範囲を確認して対策するのは、他の筆記や面接・討論の勉強を考えると非常に難しいです。自治体によっては事前に授業テーマを教えてくれるところもありますが、そうでない場合は各自治体の過去問から出題されることが多いので過去問から練習を始めます。板書しながら生徒がいる前提で練習し、友人と授業に関する情報交換を行うことが重要です。

S.K.さん（言語教育）
滋賀県中学校（英語）

【はじめに】

私は、教員採用試験を大学推薦で受験しました。大学推薦は滋賀県の募集の場合は校種・教科にそれぞれ2～4人ほど選出されるもので募集人数も多く自分にもチャンスがあると思い募集に出願しました。出願して成績などの審査があり、その校種・教科内での面接を経て、推薦をもらえる形となります。一般教養と教職教養、専門科目の筆記試験が免除されるようになり、面接や小論文、模擬授業の練習などに集中して十分に取り組むことができました。筆記試験のプレッシャーがなくなることで心に余裕が生まれるので、面接などでもより自分をうまく表現できたように思えます。募集も多いので受験される方には、大学推薦を考慮に入れることをお勧めします。さて、以下では受験にて行った対策、また実際受験をして感じた反省などを記していきたいと思います。ぜひ、参考にさせていただきたいです。

【集団討論（一次試験）】

一次試験で一番重点が置かれるのは集団面接であると思います。一番評価採点においての割合が高いものだからです。対策についてですが、討論のテーマは大学などから過去問を入手することができるのでそれを活用すればいいと思います。そして、どうやって練習するかについてが一番大きな問題であると思います。私の場合、受験生たちで集まって模擬の集団討論を行っていました。人数が多いときは、討論をするグループとそれを見るグループで分けたりして、やるだけではなく、客観的にそれを見て指摘のし合いなどもしました。集団討論は、自分だけでなく討論するグループ全体でするものなので、様々な人と討論を重ねることでより考えが深まり上手になっていくと思います。いろいろな工夫をしながら、他の受験生たちと切磋琢磨して全員で合格しに行くという気持ちで取り組むといいと思います。実際の試験では周りの受験生にも恵まれて討論は円滑に進みましたが、時には唐突で関係性のない話題や論点のずれた議論を提示してくる人もいますのでそれに対して、どのように対処するかだと思います。

【一分間スピーチ（一次試験）】

一分間スピーチとは、提示されるテーマに対して自己アピールも含めて一分間で述べるものです。集団討論の前に行われるものだと思います。これをスムーズのできることによって集団討論にも気持ちよく取り掛かることができると思いますので、これにも力を入れて対策をしてください。これもテーマに関しては、大学などから過去問を参考に練習すればいいと思います。当日どのテーマが出題されるのかわからないので、どのテーマが出題されても対応できるようにする必要があります。その際に、ある程度それぞれのテーマに対して、どう答えるかと考えると思うのですが、それにおいて自分の中で芯となる考えベースにして考えてください。どの解答にも背景には一貫性のあるようにしておくべきであると思います。そうすれば、もし当日に予想していなかったテーマが出題されても対応がしやすくなるようになると思います。いっぱい練習するのはいいと思いますが、一言一句原稿を覚えるようにする必要はないと思います。大体のいう内容を固めておいて、あとは自分の言葉でいかに上手く伝えられるかを練習すればいいと思います。

【小論文（一次試験）】

小論文に関しては、私もあまり得意なほうではなかったので、ただひたすらできるだけ多く練習して書くようにしました。練習する中で注意する点は、自分の小論文の型を身につけることであると思います。毎回ただ字数を埋めるだけでは意味がありません。序論、本論、結論とざっくり分けられていますが、その中でも自分の中でどのように論を展開していくかの型を確立させれば、あとは自分の考えをその型に沿って書くだけになります。試験当日の小論文の題が予想していたものとは少し違うものでしたが、その型を見失わないようにしてなんとか書ききることができました。

【模擬授業（二次試験）】

模擬授業は出題される単元に対して、その場で簡単な指導案を考えて10分間の模擬授業を行うというものです。これも過去問を参考にしながら練習していくといいと思います。模擬授業も小論文同様に型にはめてやると良いと思います。特に、板書に関しては型を作っておけばどの単元にも応用が可能だと思うので、自分の中で書き方を決めてやるのが良いかと思います。同じ教科の受験生と模擬授業を見せ合いながらお互いに指摘し合うことでより、模擬授業に磨きがかかってくると思います。私の場合、動画なども撮ってもらいそれを客観的に自分で見ることで反省点などを見つけ出したりもしました。声が通っているか、変な癖や仕草はないかなど、自分で見ないと気付かない点もあります。時には他教科の受験生に見てもらうのもいいかもしれません。それまでにない気づきを見つけ出すこともあると思います。模擬授業は当日は一人でやるものですが、それまでの練習は他の受験生と高め合い、みんなで学び合うのが良いと思います。

【個人面接（二次試験）】

個人面接は、受験生自分一人に対し4～5人の試験官のもと行われる面接です。教育問題について意見や考えなどを聞かれたり、また自分のプロフィールをもとに質問されたりします。集団討論や小論文の勉強ですでに教職関係の知識は深めていると思いますので、あとはそれを自分の教育観と合わせて、教育に対しての考えの軸を作るだけだと思います。その軸からブレないように質問に対する解答を考えてください。練習を重ねることでより内容のある意見を発表できるようになると思います。

【おわりに】

私は教員採用試験を合格することはできましたが、それは自分の頑張りよりも一緒に頑張った仲間のおかげであると思っています。同じ志を持って、ともに高め合うことができる仲間がいたからこそ合格につながったのだと思っています。個人で頑張ることも確かに大切ですが、自分の頑張りをおと共有して、他人の頑張りを見ることもするべきだと思います。同じ教科だけでなく、他教科との連携を取るのもいいと思います。教育学部という環境なので、そのような同志は多くいるでしょうし、何よりその環境は恵まれています。仲間みんなで教員採用試験を乗り切るという気持ちで取り組んでほしいです。

E.K.さん（理数教育コース）

滋賀県高等学校（数学）

【はじめに】

私が教員採用試験を受験しようと思ったのは、教育実習を終えてからです。アルバイトしていた塾で高校生をみて、実習先の中学生とどちらが数学苦手かな、と考えたときに高校生のほうが数学嫌いな生徒が多いのではないかと思って、高校の数学の試験を受験しました。私なりの勉強の仕方だったので、参考になる点が少ないかもしれませんが、なにか役に立つことができればと思い、この体験記を書かせていただきます。

【一次試験】

○筆記試験

- ・小論文（配点：20点 文字数：600字）

文章を書くことが苦手だったので、はじめは制限時間を考えないで600字を一生懸命書くということを練習しました。たくさんテーマについて小論文を書いていると、自分が書きたい内容が頭にすっと浮かんでいくようになりました。そうってから制限時間を設けて教員採用試験と同様の制限時間で書き上げる練習をしました。私は、教職実践演習をとっていたため、先生が添削をしっかりとしてくれました。それをもとに自分の文章を見直すことができました。添削は是非してもらったほうがいいと思います。

- ・教職教養、一般教養（配点：10点）

滋賀の高校の教員採用試験は教養の配点がとても低いということで、教養の勉強に時間をあまり割きませんでした。また、一般教養と教職教養の割合が半分ずつだったので、教職教養のみ勉強しました。せっかく覚えたことを忘れないようにするために、時間は少ないけれども毎日教養の暗記に取り組みました。参考書を1冊持っていたので、1日見開き2ページから3ページほどして、そのあとに前の日の復習というようにしていました。試験は法規の問題が多かったように思います。また、滋賀の教育指針も大切です。

- ・専門科目（配点：30点）

筆記試験ではこの科目の勉強を一番たくさんしました。難易度は他府県に比べると難しいというわけではありませんでした。1月くらいに参考書を1冊買って、その参考書の問題が完璧に解けるようになるまで何周も解きました。といっても、解説を見ずに解けた問題は解かずに、分からなかった、もしくは途中まで解けた問題を解説を見ずに解けるようにするというやり方でした。過去問も県庁でいただいて約3年分解けるようにしました。新課程の内容も多く出題されていました。

○面接試験（配点：40点）

- ・自己アピール（1分間）

テーマは自由で挙手ではなく順番にあてられていくというものでした。あらかじめわかっている問題なので、それぞれが自分のアピール点を探して練習し、堂々と発表できればいいと思います。

- ・集団討論（20分間）

討論については高校の教員採用試験を受ける人たちと集まってたくさん練習しました。私はノートを準備して他の討論の練習を見学させてもらった時に、討論の流れや意見などをメモして、コメントしたり、いい意見を真似させてもらったりしました。決して嘘をつかないで、堂々と元気に自分の意見が発表できればいいのではないかと思います。

- ・集団面接（3～5問）

面接官が3人で順番に質問をします。こちらも挙手ではなく順番にあてられていきました。具体的な内容や自分の理想などの質問が多かったです。実践演習でたくさん予想問題をいただいたので、それをもとにノートにこんなことを言おうと書いて練習していまし

た。面接官の目をしっかりと見て、ゆっくり話すことが大切ではないかと思います。

【二次試験】

○個人面接（10分くらい）

面接官は4人で順番少しジャンルの違う質問をしてきました。質問されて答えると、さらに答えに関する質問が来ます。専門科目の質問であったり、HRの質問であったりかなり具体的につっこまれました。少し怖い印象を持ちましたが、圧迫面接のような苦しい感じではありませんでした。なので、落ち着いてしっかり自分の話ができればいいと思います。

○模擬授業（質問、授業を含めて7分間）

授業をする前に別教室で7分間授業を考える時間があります。なにも見ないで授業を考えるので、あらかじめどんな授業をするか考えておく必要があります。問題もその時初めてわかるので、たくさん準備をしなければなりません。私は同じ教科で高校を受ける人と一緒に授業を試みたり、また違う科目の人たちにも見てもらったりして意見をもらいました。また、試験が近くなってきたら、本番のように友達に授業内容を決めてもらって7分間で考えて7分間で授業というような練習をしました。教科書がないと全然準備できないのでできれば買ったほうがいいと思います。

【さいごに】

私は試験勉強を始める時期がとっても遅かったので、準備不足を試験で感じました。早ければ早いほどいいと思うので、試験を受けようと決めたならすぐにでも参考書を準備して少しずつ試験準備をしたほうがいいと思います。教員採用試験でやる内容は先生になってから必ず必要になるものであったと私は感じました。なので、先生になった時のことを考えて前向きにがんばってほしいと思います。

M.S.さん（数理教育コース）

横浜市高等学校（理科）

【はじめに】

出落ちですが、最も言いたいことは【大事なこと】に記載しています。時間のない人や要所をつまんで読んでおられる方は是非下から読んでください。

【改めまして、はじめに】

横浜市の中学校（高校コース）を受験し、高校教諭として採用されました。滋賀大学では教師への就職率が高く有名ですが、主には滋賀県もしくは地元の小学校・中学校の先生になれる方が多いでしょう。そういった意味では私の就職は滋賀大学では異端児と言えます。今後輩出される異端児を応援すべく、この体験談を引き受けました。

まず、何故横浜を受けたかという、横浜といえば誰もが知っている国際都市だと思います。私は学生時代にクライミングというスポーツをしていたということもあり、アメリカ・イタリア・スイス・フランスと、のべ半年近く海外にいました。そういった経験もあり、英会話も習っていました。このスキルを活用したい、さらに磨きたいという思いから、国際都市である横浜を受験したというわけです。また、やはり教育制度や取り組みの先駆者といえば東京です。なんでもかんでも東京が始点です。例えばサイエンスアゴラ（日本科学未来館）などがそう言えるでしょう。東京を起点にその波は関東に広がります。そういった意味でも関東で1度は働いてみたいと思っていました。

【試験への対策】

筆記試験はそこまで難しくはありません。専門教科をしこたま勉強すれば、基本的には1次試験で不安になることはないと思います。しかし、高校教諭になるという思いがあれば、自分の専門教科のセンター試験ぐらいいは満点をいつでもとれる実力は必要だと思います。

小論文は意外と大きな差が出ます。大事なことは「いかに読みやすいか」と「具体性」だと思います。難しく書くことは必要ありません。試験官は1000枚以上の答案をチェック（それもおそらく1か月以内）するわけですから、小難しいことなんてのは見向きもしません。教師になってすることを明確に2個ほど書けば、それであなただは合格です。

面接はとても難しいです。まず、何を基準に採点しているのか読めません。滋賀県を受け、1次試験でつまづく多くの人は面接が原因です。どうしたら高得点になるのかは私も皆目見当がつきません。しかし、なんとなく落ちる人はわかります。言葉にはできないですが、フィーリングでこの人は危ないなと感じます。あえて言葉にするなら、責任感のなさや上辺だけの話に感じる人は危ないです。いわゆる大学生のノリだけに頼る会話というやつでしょうか。もし、本当に教師になりたいのなら、普段から大人の人と話す機会を設けることや、集団で真剣に話す機会を設けて、対話力を身につけるべきでしょう。

【大事なこと】

みなさんは「先生になるための勉強」をしっかりしているのでしょうか。こう聞くと、当たり前じゃないか！少し先輩だからって偉そうに・・・と猛反発を受ける気がします。実際に私もそう思った節が何回もあります。もちろん今では反省し、しっかり受け止めておけばよかったと思うこともしばしばです。本題に戻って、何が言いたいかということ。「先生になるための勉強」と「採用試験に受かるための勉強」は全く違います。教員採用試験を控えた人に陥りがちなのが、「採用試験に受かるための勉強」をすれば、試験に合格すると勘違いします。

しかし、近年では「先生になるための勉強」をどれだけしてきたか問われる試験項目も増えました。基本的には、筆記試験・論文は「採用試験に受かるための勉強」で受かります。ですが、面接や模擬授業ではそうはいきません。

4回生になると、希望者を集めて面接練習をする機会があります。例えばこんな5人の面接回答者がいました。あなたならだれを採用しますか。

- ・アルバイトを頑張りました。接客技術を向上させました。
- ・学園祭に所属し、人を楽しませるように取り組みました。
- ・友人をたくさん作り、いっぱい遊びました。
- ・4年間かけ、科学実験教室を行い、子供と沢山接してきました。
- ・海外の難関峰を登頂するために、1か月スイスに行きました。

友達と遊びほうけてたことや、接客技術なんてのは、アピールになるわけありません。正直、倍率6倍の試験を受けに来たとは到底思えない解答です。高校教諭になる試験ではこのうち1人受かるかどうかです。

つまり、こういった面接などでアピールしようとするれば、自分を磨くことを行ってこなければならなかったのです。これが「先生になるための勉強」です。あなたは、いったい何をしてきたのか、これに明確に答えられなければなりません。今のうちにいろんなことにチャレンジしてください。海外に行ってみるのもいいし、資格をとることもいいし、ワークショップに参加するでもいいです。座って勉強すること以外のところでも、先生になって活躍する能力は転がっているかもしれません。それを見つけることこそ先生になる近道だと私は自分の体験談から言い切れます。

大学生活というのは、あなたの強みを作ることができる大事な時間です。よく、大学生は人生の夏休みだなんて言われますが、その夏休みをいかに過ごすかで人生が大幅に変わります。頑張ってください、学生を謳歌してください。そして厚みのある先生になってください。一緒に日本の教育を支えていける日を楽しみにしています

K.S.さん（障害児教育コース） 滋賀県特別支援学校

【はじめに】

滋賀県特別支援学校の教員採用試験を受験するにあたって、私がどのように勉強してきたか、また採用試験を経験して感じたことなどを試験内容ごとに書きたいと思います。ただ、あくまで私の個人的感想なので、参考程度にさせていただけたらと思います。

【1次試験】

1次試験の評価は、一般教養・教職教養2、専門教養2、小論文2、面接試験4の配点割合です。今後もこの配点割合だとすると、面接が非常に重要になることが分かるかと思います。もちろん筆記の勉強や小論文も重要です。試験の1か月前くらいからは面接の練習も多くなるので、早めに筆記の対策を進めておくとういことだと思います。

● 小論文

教職実践論の対策が充実しています。そのため、しっかりと講義に出席することが大切だと思います。また、書きっぱなしではなく、添削を受けたものを書き直すことで少しずつ力が付くと思います。私はそれでも不安だったので直前は1日1題書くようにしていました。内容の善し悪しは1人ではなかなか判断できませんが、友人と見せ合いお互いの良いところを学びました。

1番大切なことは、時間内に最後の行まで書ききることだと思います。練習でも時間を意識して書くことをおすすめします。

● 一般教養

高校時代までの学習の蓄積が影響する範囲だといえます。

私は、社会科の知識がほとんどないため、社会については諦めました。その分、数学と英語は必ずノームスで、また理科と国語も3問中2問は解けるようにと思い対策をしました。実際に私が行った対策は、英語の長文読解を市販の問題集で対策したことと過去問を解いた程度です。もちろんすべて対策した方が安心ですが、5教科のうち3教科くらい必ず得点できる教科があれば十分ではないかと思います。

● 教職教養

しっかりと勉強すれば満点が狙えると思います。一般教養で高得点が難しい人は満点がとれるくらいまで勉強しておくとういことと安心です。

私は、穴埋め式の参考書を利用して、ある程度暗記したところで問題演習に切り替え、間違えた問題をひたすら繰り返し解くことで力がついたように思います。特に、全国の昨年度の過去問が載っている問題集を何度も解きました。似たような問題が多く出てきており、傾向をつかみながら解き進めることができました。また、受験する自治体の過去問については少なくとも3年分くらいは解くべきだと思います。

● 専門科目

特別支援教育に関する専門試験は、範囲が幅広く傾向がつかみにくいため苦労しました。ほとんどの人が東京アカデミーの緑色の参考書を使用しているのうので、それをしっかりと勉強すれば他の受験者に大きく差をつけられることはないのではないかと思います。

私は、学習指導要領の暗記にかなり時間をかけて対策しましたが、結局私が受験した年は出題がありませんでした。代わりに対策していない特別支援教育の歴史から出題があり、ほとんど得点できませんでした。幅広い範囲をまんべんなく学習しておくべきだったと感じています。

ちなみに現場で働いていらっしゃる講師の方の中には、忙しく対策を十分できずに本番を迎える方も多いようです。学生の受験者は、討論などで経験を語るができない分、筆記の勉強をしっかりと時間をかけて行うこととて差をつけることができるのではないかと思います。

● 集団面接

1次試験の面接は・自己PR・集団討論・個別質問(1人あたり2~3問)です。どれも教職実践論で対策できます。その時に受けたアドバイスをしっかりと取り入れていくことが大切だと思

います。

集団討論は一人ではなかなか対策できないので大学で友人と行うのがいいと思います。ただ特別支援学校の受験者は滋賀大の中でも少数だと思うので、同じメンバーでの練習になりがちです。他の校種の人などいろいろな人と練習することで緊張感を保つことができるし、いろんな考えを知ることができると思います。

また、本番の試験では学生はかなり少数でほとんどが講師の方や社会人の方です。どんな人とも討論ができるように自分の意見をはっきりと伝えられる力、他者の意見を聞き、共感しながら話を展開する力が重要だと感じました。

討論や面接のときに印象の悪い例としては

- ・発言が話の流れに関連していない
- ・他者が話しているときに聞いている姿勢がみられない
- ・目を見て話していない
- ・話が長く要点が分かりにくい などが挙げられると思います。

【2次試験】

2次試験の評価は個人面接6と模擬授業4の配点割合です。膨大な範囲の対策が必要なため1次試験終了後早めの準備が大切だと思います。

● 模擬授業

滋賀県特別支援学校の模擬授業は、教科を指定することができず、取得見込み免許のどこから出題されるか分かりません。私は小学校と中高数学の免許を取得見込みだったため、膨大な範囲から出題される状況で、実際すべての範囲を網羅することは私には不可能でした。ただ、試験官の方は、教科の専門的知識だけでなく、話し方、表情、板書、障害への配慮の様子などあらゆる観点から評価されていると思います。指導力でアピールしきれない場合は、他の観点からアピールできるようにすればいいと思います。

また、本番の試験では授業の内容が出題されてから指導を考える時間が7分、授業時間は質問を含めて5分ほどでとても短いです。練習でもこの流れを意識して何度も練習することで試験本番に力を発揮できると思います。特に質問を含めて5分間の模擬授業時間はかなり短く感じます。そのため、少ない時間でいかにアピールするかを考えながら対策することが重要です。

● 個人面接

部外秘にのっているものを一通り自分で考えておくとよいと思います。ただ、本番では考えていなかった質問をされる可能性も十分にありますので、落ち着いて頭で考えたことをわかりやすく簡潔に伝えられることが大切です。もし、考えても分からない質問をされたときは、正直に分からないということを伝えることも大切だと思います。ちなみに私も本番では自分の意見に対して「それは違うのではないですか？」と問われたり、模擬授業の後の質問で数学に関する専門的な質問をされ「すみません、分かりません。」と答えたりもしました。

【終わりに】

最後まで読んでいただきありがとうございます。少しでも皆さんの参考になればうれしく思います。

採用試験の勉強は大変ですが、最後は自分がどこまで頑張れるかどうかだと思います。そして教員になりたいという思いがしっかりと自分の中があれば、最後まで頑張れると思います。合格に向けて頑張ってください。